

婦人と子ども



邦人の四大缺點と子供の教育

尺 秀 三 郎

昔文王の母大任は、胎教の事につき最心を用ひたと云ふのですが、兒の胎内にある時でさへ、猶此の様です、況して兒が生れて後はこれに種々の方法を以て教育を施し得べきはいふまでもありません、就中、幼稚教育の最必要なるは、各國に於ても殊に唱導する所です、ギリシヤのアリストートルは夙にこの教育につきて論じてあります、即幼稚教育を二期に分ち、初生兒より四歳までを第一期とし、四歳より七才までを第二期とします、幼稚園教育は即この第二期に當るものであります、然れども此教育は

決して學問技藝を教ふるのではありません、先づ其主とする所は身體の保育にありませぬ、即ち幼稚園は他日に於て諸種の事物を知るべき機關の基をつくる所であると論じました、其後「コメニヤス」母の膝下の教育」と題した書をあらはして、盛に幼稚教育の事を論じました、此の様な説が種々ありましたが、是等教育の事を實地に行つたのは所謂フレーベル氏であります。

フレーベル氏が出てから、幼稚園教育は諸國に盛になりました、先づ獨逸國より起りて漸次隆盛を來し、次て英米に於ても又完全なる結果を來しました、而して何れの國に於きましても未だ幼稚園教育に於て學問技藝を教へたといふことをさしませぬ、即ち幼稚教育に於て最大切なのは、人間の心の傾きの基礎を作るとです、即ち習性を作るに在るので、去る四月二十一日の總集會に於て中島先生の習慣につきての講話の中に習慣は幼時に於て矯正すべきこと、且日本人の欠點を擧げて之を矯正すべき方法を教育家に向ひて尋ねられましたから、私はこれより其間に答へて之を矯正する方法を説かうと思ひます。

(第一)の欠點は不規則といふことであります、抑この不規則といふことは、只に一個人にて行へば其人一人にのみ關するものであるけれども、之を他人に對して行ふときは、其不都合の生ずるには實に甚しきものであります、人に對しての不規則と云ふのは他人を訪問する時などです、此等は其最も甚しきものゝ一です、又不規則の爲に、或は身體に害を及ぼすことがあります、或は徳育上に悪しき結果を來すことがあります、されば吾々は之より漸々規則正しき方に進まなければなりません、今順次其矯正の

法を述べませう。

第一には小兒に起臥の時間を一定させることが最必要です、斯くすれば一日の長さに定りが出來ます、一日の長さに定りが出來れば其内になすべき仕事の分量に定りが出來ます、そうすると其仕事は即規則正しさの結果を生ずる様になりませう。

第二には、自分等が小兒を集會又は汽車馬車などに伴ひ行く場合には可成的この時間に接近して行くやうな習慣を附けることです、遅きに過ぐるときは勿論、惡いのですが、さればとて又早きに失するときは同じく弊害を生ずるものであります。

第三には、身體の健康と云ふとも又規則正しき生活をなすに當り最大大切なことです、もし身體健康でなければ外部の攻撃に抵抗することが出來ません不規則は健康を損ずる基です、故に健康を保ちゆく上に規則といふものは最必要です。

第四、凡そ人は感情の強きものなれば往々之によりて不規則に誘はるゝことが多いです、かゝることはよく注意して決して結局の爲に動かさるゝことなく、よく己の意志を以て判斷して事を決行する様な習慣を作ることが必要です。

第五、規則正しき習慣を養ふにつき最必要なのは人間に性格を作ることでありませう、性格とは道義を標準として之に外れたることは決してしないと云ふ習慣を養ふことです、只一時の快不快をもて容易

く已が行爲を變更する様なものがあつてはなりません、抑道理には二つありません、さればこの道理を本として行ひ行く時は、即規則正しき人間を作ることが出来ず。

(第二)の欠點は吾人の小量といふことであります、之を正さうとするには、

第一の方法として見聞を廣くしなければなりません、即人間と人間及人間と自然との交際の範圍を廣くしなければなりません、即幼兒にありては獨り家庭のみならず、幼稚園などで諸種の交際を廣くすることであり、兎にかく多くの人前に出すことが必要です、其一方便としては旅行をなさしめることは吾人の小量を矯むるによき一方便であります。

第二には人を叱責するに當りて他人に比較して叱責するは其人をして大に其了見を狭小ならしむるものであります、何となれば幼兒はも己一人のみならば恐らく叱責を受くるとあるまじと云ふ考を起して、其比較されし人を妬むといふ考を起す様になる、これは其人を小量ならしむる一原因であります、凡て善をなすには其事物其もの、善なるが故に之をなすといふを知らせなければなりません、かくすれば大量の氣は自ら生ずる様になりません。

第三、歴史は又人をして大量ならしむる一大學科であります、蓋この學は小なる區域に止まらず已を大なる人物と比較して、或は現今に止まらず遠く往古に迄も溯りて研究するがためであります、古人の漢學者に往々其大量なものがあつたのは故であることでもあります。

第四には想像力を養ななければなりません、此方に富む人は自ら大量となるものであります、然るにこゝに小兒につき注意しなければならぬのは、小兒の時は想像が概して強いものです、これは小兒は周圍外界の者について實驗したるを少ないから、想像の極遂に妄想に陥るものでありますから、余りに妄りな想像力を養つてはなりません、小兒に此力を養はしめんとするには、地理歴史の様なもの、最も必要に且便益ある學科であります、蓋地理に於ては例へば一本の線を河とし毛虫の如きものを山とすると云ふとは、大なる想像ですが、其河或は山は常に一定して動くことなければ、限界ある想像となるのであります。

第五には人をして自然の物質の慾にまよはせてはなりません、已の飲食衣服より外に無形にして貴きものあるを知らせなければなりません、即道理といふことを貴ばせなければなりません、むつかしく云へば學科中にも哲學を學ばしむることは又小量を矯むる一方便であります。

(第三)の欠點は我國人は狼狽輕卒なる性癖を有することであり、これは小量と云ふことを裏面より見たので、畢竟小量だから狼狽を生ずるものであります、英人は概して僅かのことには狼狽せざることは實に意外の觀があります、之を正さんには

第一に事をなすに當りて先づ一の計畫をたつる習慣をつくらなければいけません、心に一の計畫を立つる時は決して狼狽といふことはない筈です、かくすればは誤と云ふことは絶てない様になります、これ狼狽

の性を正す最良法であります。

第二に、父母は其子の賞罰を處理するに當りて、最注意しなければなりません、若し小兒のしたことが偶然に出たことならば、假令其結果の善なるにもせよ惡なるにもせよ決して賞罰を施してはいけません、但其事が偶然の結果か否かは見分けることが最むつかしいことですから、豫めよくこれらの判断を誤らない様に注意しなければなりません。

第三には、體力を盛にしなければなりません、即柔術、擊劍、水泳などを試みて自己の體力を頼み得るやうにしなければなりません、かくの如くすれば假令變事に當つても、狼狽しない風を養ふことができます。

第四には、人各宗教を信することは又其人を沈着ならしむる良法であります、即安心立命すること、が最必要であります、例へはこの宗教の力によりて人間の最も恐るべき死も決して恐れない様になりますし、又かゝる深奥に達せずとも之によりて充分の効果があつてあります。

(第四)の欠點は、我國人は我儘にして公共の徳に乏しいことであります、先づ幼時に於て泣くといふことから其源を發します、この泣く事には種々ありまして、或は饑渴をつけ、或は不安を報するなどでありますのに其原因を究めないで只管無暗に之を慰め様として、種々兒供の興あり氣なことをして見せませんが間違つたことです、例へば子供が饑によりて泣くとすれば、是等によりて饑は治すことがないから

泣くことを止めません、然れども泣く時は常に興あることを見得るを悟り、遂に泣くことを唯一の武器とするに至ります、之より成長すれば泣くことは漸く止むるも、或手段を用ゐれば人は己が自由になるものなりとの念を起し、遂に剛情となりて、他人の前にては、己が心をまぐることに能はざる人間となり、我儘の性となるものであります、故に幼時より道理ある要求あるにあらざれば、我が父母は決して之を採用しないと云ふ考を入れて置かなければなりません。

第二には、自尊心を養はしむることが肝要です、人が己を笑うから行儀をよくするのではなくて、己が價格を落ざらん爲に行爲を正しくするのであるを心得させることが必要です、この心を發達せしむる時は、即我儘を矯むる一良法となるのであります。

